

建設常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和8年5月18日（月）～19日（火）

2 視察項目（視察都市）

- ・二酸化炭素分離回収事業について（佐賀市）
- ・サザン鳥栖クロスパーク開発事業について（鳥栖市）

3 参加委員

委員長：円藤こずえ 副委員長：永田 真樹

委員：佐藤 恵、米川 勝利、川口 元気、北原 正、仁木 和芳

4 調査概要

佐賀市では、ごみ処理施設統合の効果であるコスト縮減、バイオマス資源の増加を周辺地域に還元することを目指し、地域産業の創出を実践、バイオマス産業都市構想を策定している。ごみ焼却施設における二酸化炭素分離回収事業は、焼却に伴い発生する二酸化炭素を地域の資源に活用することを目的に、主に光合成で成長する農産物の生育促進に利用している。隣接地に事業者を誘致し、10年経過後には、何もなかった清掃工場周辺に多数の事業所が稼働することとなった。



佐賀市にて

鳥栖市では、交通の結節点である立地を生かし、小郡鳥栖南スマートIC周辺を候補地として土地利用構想を策定し、開発を進めている。開発手法として財政負担の軽減を図りスピード重視の開発を目的に、民間提案を基本とする事業計画に基づいた民間開発により進めている。

5 委員長所感

佐賀市では、ごみ焼却施設におけるCCU（二酸化炭素の回収と利用）設備を日本初設置。10年前は清掃工場の周辺には何もなかったが、新規産業の誘致により工場等が立ち並び、CO₂を活かした農業の発展にもつながっている。茨木市においては、数年後には環境衛生センターが老朽化により次期施設整備に入らなければいけない。佐賀市のように、周辺に企業や市民が集まってくるような施設を目指すため、参考としたい。

鳥栖市では、現在、小郡鳥栖南スマートIC付近で産業用地開発「サザン鳥栖クロスパーク事業」が進められている。官民連携で特に民間主導で開発を進めることにされた理由などを詳しくお聞きした。民間提案を受け入れ、市の財政負担の軽減を図り、スピード重視の開発を目的に進められている。茨木市においても、彩都開発での企業誘致を今後進めていかなければならないが、鳥栖市のようにスピード感をもって、さらに製造業など雇用を多く生み出す企業誘致へと進めていかなければならないと感じた。